

題材についての評価規準は、国立教育政策研究所教育課程研究センターの『指導と評価一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校）令和2年3月に示されている第2編の各教科における「内容のまとめりごとの評価規準」を作成するための手順」や、第3編の「題材の評価基準の作成のポイント」から「題材の評価規準」を導き出す。

評価規準の文末表現は、「おおむね満足できる」状況（B）を実現した児童の姿を想定した「～しようとしている」「～している」などの表現にする。

4 指導計画（○時間 本時○／○）

（評価計画を含めて書く。「『指導と評価一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参考にする。）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ○○どのように表すかについて考える。 ○○しながら表したいことを見付ける。 	知 ○ 思 ◎ （発想や構想）	<ul style="list-style-type: none"> ○○に着目している様子を観察する。 （観察，作品） ○○をどのように表すか考えている様子を観察する，問いかける，作品を見るなどして学習状況を把握し，記録に残す。 （観察，対話，ワークシート）
3	<ul style="list-style-type: none"> ○○するなど，表し方を工夫して表す。 	技 ○	<ul style="list-style-type: none"> ○○を工夫して表している様子を観察し，指導に生かす。 （観察，対話，作品）
6	<ul style="list-style-type: none"> 友人と互いの作品を見合いよさや面白さ，表したいこと，いろいろな表し方について感じ取ったり考えたりし，見方や感じ方を広げる。 	思 ◎ （鑑賞） 態 ◎	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友人の作品を見て，よさや面白さ，表し方の工夫などについて感じ取り，話し合っている様子を観察する，問いかける，作品カードを見るなどして学習状況を把握し，記録に残す。 （観察，対話，作品カード） 活動全体を通して把握する。 （観察，対話，作品）

○題材の評価規準に照らして，適宜，児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして，全員の学習状況を把握し記録に残す。

5 本時

(1) 目標

本時の具体的目標を児童の行動目標で書く。
 (「～する。」等)

「題材の目標」「学習活動における具体的
 評価規準」との整合性を図ること。

「本時の目標」や「題材の評価
 規準」との整合性を図ること。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
○分	1 本時の活動への意欲をもち、本時のめあてをつかむ。	本時の活動のめあてを確認させる。		
	本時のめあて(～しよう。～を感じ取ろう。等) ※本時で何をどのように学ぶのか、見通しがもてるめあてを示す。			
	2 * * * * * * * * * * つくる。 ※児童の活動内容について書く。 (文末表記例) ～する。 ～知る。 ～表す。等	* * * * * * * * * * 促す。 教師が特に配慮する点について記述する。 製作・用具・材料などの活用に関する注意点、他教科・他の題材との関連などを記入する。 文末表記例) ～させる。～促す。 ～準備しておく。	「おおむね満足できる」と判断される状況を書く。 ○○を働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 【技能】 ○○について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【思考・判断・表現(鑑賞)】	(例) 観察対話作品
	3 観点の中の1～2つに設定した方が、ねらいが明確になり、適切な評価が可能になる。			

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	「おおむね満足できる」状況よりも質的に高まった状況を実現している 児童の姿を具体的に 想定して、記述する。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	指導の手だて を具体的に想定して、記述する。